

## 人権教育講演会

### 中学生日記

七月三十日、笠岡市民会館で人権教育講演会が開催されました。長年にわたりNHKの「中学生日記」に教師役として出演された、俳優の岡本富士太さんに、「中学生日記の現場から子どもの心が見えますか」という演題で、ご講演いただきますが、ここにその概要を紹介します。

「中学生日記」に出演している生徒はタレントではなく、普通の中学生です。部活動の後、四十分で通って来られる中学生を募集しますが、いろいろな環境のもとで、いろいろな価値観をもった子どもたちを集めるため、東京でなく、名古屋で収録しているそうです。千人ぐらいの応募者から、自分を語れる子、夢を語る子をさらに絞ります。

番組自体も、大人が書いた台本でできあがるのではなく、多くは中学生が書いた作文がもとになっています。だから、中学生が今悩んでいること、昨日まで悩んでいたことが表現されているのです。

### 不登校

不登校について、ご自分の体験をふまえて、お話になりました。

その中で、大変お世話になった二人の先生が絶対言わなかった言葉を紹介されました。それは、「忙しい」と「大変だ」という言葉です。親にしても、教師にしても、「忙しい」とか「大変だ」ということで、子どもが相談しようとしても相手をしてやれない状態にありがちですが、そ



### 人の評価

成績だけで子どもを評価することの愚かさを、息子さんの言葉を通して訴えられました。「キャッチボールをしてくれるお父さん、旅行に連れて行ってくれるお父さん、仕事をやっているお父さんなど、全部含めて、お父さんだなんて見ているよ。」

の先生方は「暇だ、大丈夫だ」と言っていて、子どもの心をつかみ、不登校の原因が友達からのいじめにあったことを見つけられたそうです。

岡本さんご自身も、全部わかっているような顔をしている友達パパではいけないということに気づき、自らが変わろうと懸命に努力されたそうです。

問題が起きたときに大切なことは、問題を起こした子どもから相談される大人になることではないでしょうか。



岡本さんの講演に対して、参加者

からいろいろな感想が寄せられています。ここでその一部を紹介します。

◆ 体験をした者でないと理解されがたいこともあるかと思いますが、大勢の方の前で声をあげられたこと、主張されたこと、感激しました。我が子と重ねて考えました。

◆ 体験談は、やはり説得力があり、その内容も、子育てをしている今、最も考えなければならぬ事柄でした。個人を育てることの重要性を思い知らされました。何より、自分が変わりました、実行することが大切だと思いました。

◆ 今回のような身に迫る実験の講演を聞かせていただきたいです。涙を流しながら聞かせていただきました。ありがとうございます。教育のこと、家と地域の大切さを実感させていただきました。

◆ 何気なく過ごしている日常ですが、自分は本当に子どもと向き合っているのだろうか。本当に子どもの心が見えているのだろうか、と考えさせられました。

◆ もうじき中学生になる娘がいるので、興味深く聞きました。家庭が子どもにとって、一番おちつけ、何でも相談してもらええる親でありたいと思いました。とってもすばらしいお話でよかったです。